C－46 日本人青年女子の肌色の季節の変化について第9報 秋田地区における

東京家政大家政 木曽山かね 秋田短大家政 鎌田トヨ ○虻川勢子

目的 本研究は、皮膚の色調と衣服の色との関係を考えるための、系統的な基礎資料を得る目的をもった基礎実験研究である。第21回総会に東京地区を報告し、その後名古屋、札幌、岡山、山形、新潟地区の色調について報告したが、今回は秋田地区における女子大学生の四季の皮膚の色を測定し、考察検討を行なった。

方法 測定の方法は視感測定法で行なった。測定時期は春期は1974年5月初旬、室温20°C湿度61%、夏期は1974年7月初旬、室温24°C湿度72%、秋期は1974年10月中旬室温20°C湿度72%、冬期は1974年2月中旬、室温20°C湿度62%で、皮膚面の照度450 Luxより500 Luxの間で測定した。被験者は、秋田市秋田短大生1、2年87名である。被験者の年令と割合は、19才28.7%、20才62%、21・22・25才を含め9.3%である。被験者の皮膚は化粧をしない皮膚を測定した。被験者の着衣状況は、夏期においては衿明は原型位、袖丈は6月より9月まで半袖、他の季節は長袖で、冬期は衿元はつまったものを着用していた。家庭の職業は農業25.3%、漁業1.2%、会社員、公務員、商業を含めて66.7%である。

結果 自然の色調を示す部位では、明度の高いやや黄味の多い7.5 YR 7.5/3などが多くみうけられ、額など外界の刺激を受け易い所では、春夏秋とピンク系の色調もみられるが、5.0 YRの明度低く彩度の高い6/4などが、約50%も出現した。又、やや黄味がかった色調7.5 YRが20%内外みられるなど非常に多彩である。他地区に比べ季節間の変化が少ないという傾向があり、その点については今後の研究に依りたいと考えている。